

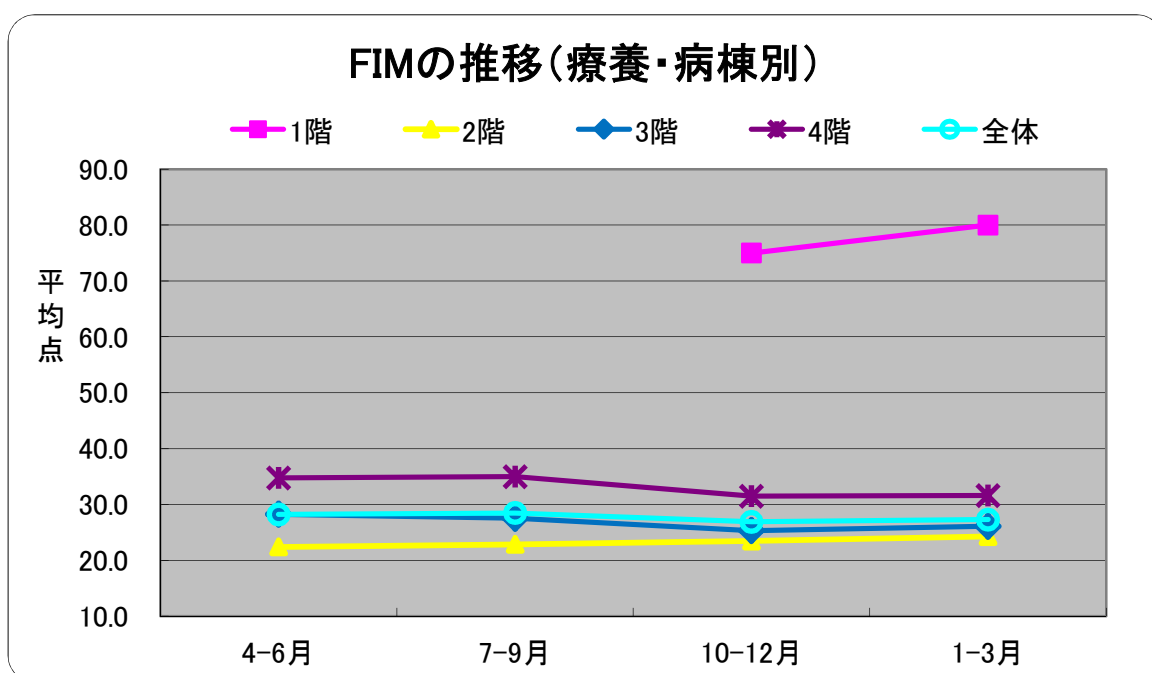
## 平成29年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

### <対象>

- ・ 平成29年4月1日から平成30年3月31日の間で3ヶ月以上の入院患者
- ・ FIM評価を実施した206例
- ・ 年齢：83.0±9.1歳
- ・ 性別：男性70名、女性136名

- ※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者
- ※ 1階病棟：回復期対象者を除く

### <結果>



病棟別	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1階	—	—	75.0	80.0
2階	22.4	22.9	23.5	24.3
3階	28.3	27.5	25.3	26.1
4階	34.7	35.0	31.5	31.6
全体	28.2	28.5	26.9	27.3

### <まとめ>

1階の医療療養は、主な対象が回復期病棟の期限超過者であり人数も多くない。そのため、個人のFIM得点が直接影響している。

2階は低値ながら右肩上がりであるが、3階は逆に下がっている傾向にある。4階も3階と同じような変動を示しているが、在宅復帰対象者が入院しているため、FIMの値は他階よりも高い。

療養病棟全体の平均では、昨年と同様3階に近い値である。年度を通して平均値が30以下となっており、後半は昨年を下回るなど重症化が続いている。

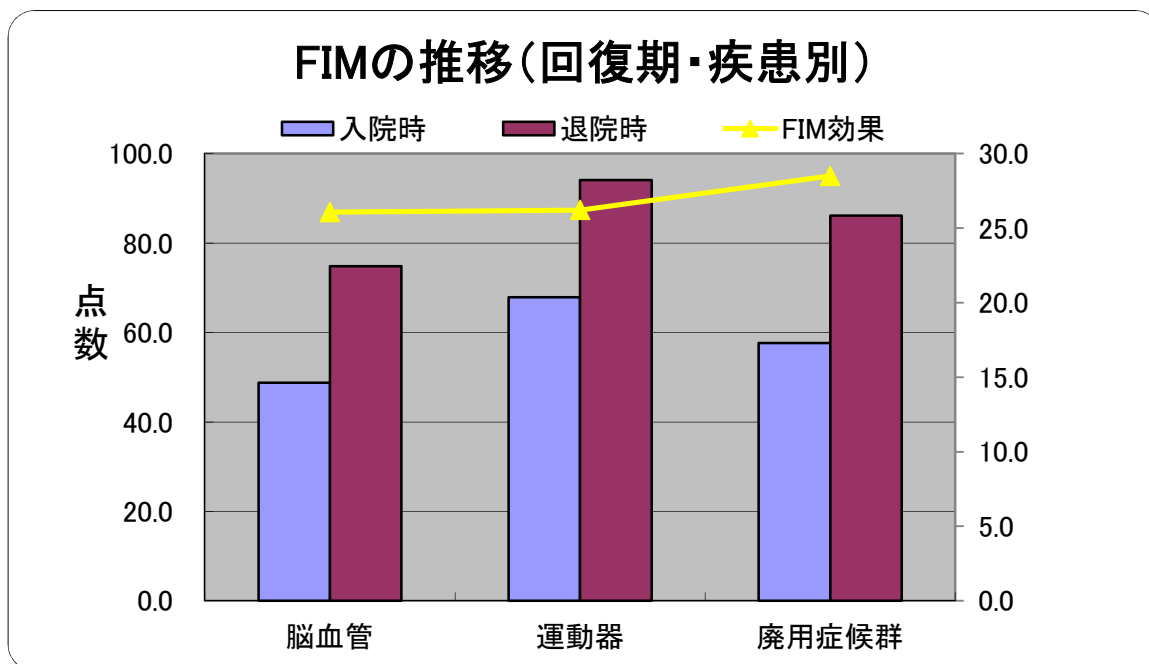
# 平成29年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

## <対象>

- ・ 平成29年4月1日から平成30年3月31日の間で、入院から退院まで至った患者
- ・ 回復期病棟の入院時と退院時でFIM評価を実施した116例
- ・ 年齢：79.2±9.1歳
- ・ 性別：男性44名 女性72名

※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者

## <結果>



	脳血管	運動器	廃用症候群	全体
入院時	48.8	67.9	57.6	56.5
退院時	74.8	94.1	86.1	82.8
FIM効果	26.1	26.2	28.5	26.3
FIM効率	0.29	0.37	0.42	0.32
年齢	77.7	80.7	84.3	79.2
在院日数	90.0	68.0	68.1	81.2

## <まとめ>

本年度はFIM効果、FIM効率ともに高値を示し、運動器FIM効率を除き全国平均を上回っている。特に廃用症候群においてはFIM効果が全国平均の1.8倍と良好な結果となった。

在院日数に関しては、脳血管では平均14日の短縮を図れたが全国平均には4.6日届いていない。運動器では昨年よりも10.9日、廃用症候群では1.6日と長くなってしまい全国平均との差が広がっている。引き続き在院日数の短縮が当院の課題である。

# 資料

【全国平均】			
	脳血管	運動器	廃用症候群
入院時	64.5	77.0	60.4
退院時	85.6	98.8	76.0
FIM効果	21.1	21.8	15.6
FIM効率	0.25	0.39	0.28
年齢	72.9	79.1	80.6
在院日数	85.4	56.2	56.1

※ 回復期リハビリテーション病棟協会 平成30年2月 より